

昭和医科大学鳥山病院だより

あおぞら

第221号

〔発行責任者〕病院長 真田 建史

〔編集責任者〕広報委員長 真田 建史

〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕03-3300-5231(代表)

[2026年1月1日]

新年のご挨拶 -変化の時代に応える精神医療を目指して-

精神科 診療科長補佐 杉田 秀太郎

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、地域の皆様ならびに関係機関の皆様より温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年度は主任教授の交代を契機に若い医師が多く着任し、当院の診療体制は大きな転換期を迎えました。新たな視点とエネルギーが加わったことで院内には活気が生まれ、急性期病棟を中心に入院件数も着実に増加しています。症状が急に悪化した患者様に対しても、医師・看護師・コメディカルが連携し、症状の改善を図り、日常生活を取り戻せるよう、集中的な治療を行える体制を整えています。

本年は、これまで入院でのみ実施していた mECT 治療について、麻酔体制や術後の観察体制を整備することで、外来での施行も可能となりました。通院しながら治療を受けられる選択肢を広げることで、より多くの患者様のニーズに対応してまいります。

近年、精神疾患を取り巻く医療ニーズは大きく変化しており、重症例への対応に加え、早期診断や迅速な介入、外来を中心とした継続的な支援の重要性が高まっています。患者様の背景や生活環境も多様化する中で、より柔軟で一人ひとりに寄り添った医療提供が求められています。

2026年は、こうしたニーズに応えるべく、入院・外来ともに診療内容のさらなる充実を図ってまいります。mECT に加え、新たに rTMS 治療の開始も予定しており、治療の選択肢を広げることで、より適切な医療を提供できる体制を整えてまいります。

また、外来機能の充実を目的に、外来レイアウトの変更や待合室ソファーの刷新、患者呼び出し用モニターの設置を進めています。今年度からは外装工事も開始し、院内外ともに環境を整備することで、安心して受診いただける病院づくりを進めてまいります。さらに、1月1日より新たなカルテシステムへ移行し、より安全で効率的な診療体制を構築しています。

今後も地域の中核病院としての役割を強く意識し、地域に根ざした精神医療の提供できるよう、職員一同努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2026



院内学会の報告

昭和医科大学鳥山病院では、職員の研鑽を目的に病院内で研究発表を行っております。

今年度は 22 演題のエントリーがあり、62 名の職員が参加しました。発表後も会場から様々な質問が飛び交い大変盛り上がりました。

今回、発表をされた人へインタビューをさせていただきましたので、紹介したいと思います。

精神科 山田 真理 兼任講師

演題：昭和医科大学鳥山病院におけるギャンブル障害治療と入院患者の予後調査

Q：どのような発表内容だったのですか？

A: 今回の発表では、当院におけるギャンブル障害入院患者を対象に、治療の特色と退院後の状況について後方視的に検討しました。当院では、門限 23 時 59 分の設定、入院中からの自助グループ参加の推奨、ピアの病棟雇用、スリップの有無よりも正直さを重視した関わり、鳥山版 SBIRTS など独自の取り組みを行っています。退院時にはほぼ全例が自助グループと継続的なつながりを形成しており、退院後の環境調整が入院加療における重要な役割を担っていることが示唆されたということを報告したものです。

Q：今回の研究内容をどのように診療へ活かしていきますか？

A: 当院での治療を通じて、新しい居場所や生き方を手に入れ、回復していく患者さんを多く見ることができたことは、今の私にとって大きな財産です。家族に過度な役割を背負わせない支援の在り方など、依存症治療対応を学ぶ中で、他の精神疾患においても本質的な課題が理解できることが増えました。今後も私自身、多くの支援者や回復者と出会いながら、患者さんが楽しく回復できるよう伴走できたらと思います。また、こうした依存症治療の魅力をより多くの医療者にも伝えていくことも次の目標です。

作業療法室 小林 崇志、松本 美並

演題：うつ病のためのメタ認知トレーニングの学習内容を作業療法の経験に落とし込んだことで生活の捉え方が変化した事例

Q：どのような発表内容だったのですか？

A: 現在、当院では作業療法プログラムで「うつ病のためのメタ認知トレーニング（D-MCT）」を展開しています。元々、うつ的思考（今回は、すべき思考・メンタルフィルター・ポジティブな事へのダメだし）をもつ入院の方が D-MCT に参加し、それと同時に作業療法士による個別活動での関わりを経たところ、退院時にはうつ的思考が柔軟で前向きな思考に変容し、自信を取り戻す経験ができたことを発表させていただきました。

Q：今回の研究内容をどのように診療へ活かしていきますか？

A: 今後も、集団で行っている D-MCT の参加と同時に個別でプログラム内容を振り返る機会を作り、学習内容を日常生活に溶け込みやすくしていきたいと思っています。また、私たちは当院に通院している方向けのほかに、働いているスタッフへ向けても D-MCT を広めたいと考えています。スタッフのメンタルヘルスケアにもぜひ D-MCT を活用していただきたいと思っていますので、定期的に D-MCT の勉強会を作業療法室で開催します。仲間になってくださるメンバー・スタッフをお待ちしています。

診察券更新・受付方法・呼出し方法変更に関する案内

2026年1月5日より、診察券並びに再診患者さんの診察券・受付方法・呼出し方法が変更になります。詳細については、当院ホームページにてご案内をしておりますので、以下のQRコードからご確認をお願いいたします。



診察券更新について



再診患者さん受付方法変更について



呼出し方法変更について

コラム連載（第5回）

こちらは、当院で働く様々な職種の方に、当院にまつわるお話や、メンタルヘルスに関することなど幅広い形で情報提供をさせていただく企画です。第5回は、当院臨床検査室責任者である、田原 佐知子氏

精神科と臨床検査

昭和医科大学鳥山病院 臨床検査室 田原 佐知子



現在、精神科における臨床検査は、単なる体調の変化を見るだけでなく、治療の安全性と客観性を担保するため不可欠なプロセスとなっています。主な役割として

- ① 鑑別（他の病気の除外）：うつ症状や幻覚の背後には、甲状腺機能障害、ビタミン欠乏症、脳腫瘍などの他の病気が潜んでいる場合があります。これらを見逃さず、適切な診療へつなげるために、血液検査や脳波が実施されます。
 - ② 安全管理（薬物療法）：精神科で使用する薬剤は、心・肝・腎機能への影響や代謝異常（血糖値上昇など）を伴うことがあるため、定期的な検査（心電図や血液検査）が重要です。特に抗てんかん薬などは、治療効果と毒性のバランスが狭い薬の投与量を最適化するため、血液中の薬物濃度を定期的に測定します。
 - ③ 客観的診断：2025年には、アルツハイマー病などの認知症診断において、バイオマーカーによる高精度な検査が保険診療で開始されています。また、光トポグラフィー（NIRS）を用いた脳血流測定など、主觀に頼らない診断補助技術も活用することができます。
- このように臨床検査は、目に見えにくい心の病を科学的な指標で支え、より安全で精密な治療を支えています。担当医から検査を行うよう言われたら、自身の体を第一に考え積極的に受けけるようになることが大切です。



デイケア活動

(K.K)さん

みなさん、こんにちは。私（K・K）はデイケアに通い始めて今月で7ヶ月になります。今回はおすすめのプログラムを紹介します。その名も、就労準備！毎週火曜の午後に行われるプログラムで、私自身、いま就活中ですので大いに活用しています。参加すれば、就活のいろはを学べること間違いないでしょう。

主な流れとしましては、以下のとおり

1. 最近の就活事情（ニュース）
 - (例) 法定雇用率、ある企業の取り組み、現状についての紹介など。
2. スタッフによる概要説明（理論編）
 - (例) 自分に向いている／向いていない仕事は？
3. シンキングタイム、または体験作業（実践編）
 - (例) アンケート回答、時間内にプレゼン、白封筒作り、データ入力など。
4. プログラムに参加した感想や気づきをシートに記入（振り返り）
 - (例) 時間に終わらなかった！原因を探って次に活かそう……。



同じ発達障害とはいえ、特性の表れ方や軽重、資格の有無などによって、就労へのイメージは人それぞれでしょう。心身への負担は少なくなく、大きな壁であることに変わりはありませんが、みなさん「働きたい」と思う気持ちは同じだと思います。

私自身、過去のアルバイトやこの就労準備での経験を通して、自分の障害への理解（どういう時に表れるのか？ストレスの対処法は？合理的配慮は？など）が深まり、向いている/向いていない仕事の見極めができるようになりました。

このプログラムで培った学びやノウハウは、今後の企業選びや面接で大いに役立つでしょう。それは、いま担当スタッフ協力のもとで私が履歴書・職務経歴書の作成や面接の練習をしていることにつながっていると思います。

《11月》	入院(前月)	外来(前月)
◆延 患 者 数	8,328(8,615)	5,947(6,920)
◇一日平均患者数	277.6(277.9)	277.6(269.2)
◆診療実日数	30(31)	22(26)

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

診察時間：月曜日～土曜日 8時30分～17時
電話：月曜日～土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日 8時30分～14時

◎休診日：日祭日・本学創立記念日・年末年始

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。
こちら鳥山病院のホームページのQRコードとなります。

ぜひご覧ください。

鳥山病院精神医学講座インスタグラムが開設されました。
随時情報を発信していきますので、
どうぞよろしくお願ひいたします。



【編集後記】

新しい年になりました。一年の計は元旦にありと言いますが、今年はどんなことができるでしょうか？心配なこともあるかもしれません年のはじめくらいは「こんなことができたら良いな」「あんなことが実現したら良いな」と少し楽観的に考えられると良いな～って思っています。今年一年が皆さんのが現在考えている最高の一年よりもっと良い「こんな素敵なお年になるなんて思ってもいなかった」「あの一年が人生が良くなつた転機だったな～」という一年になるように、一緒に日々を過ごせたらな～って思っています。

広報委員 常岡 俊昭